

平成 28 年 4 月 1 日

## 京口門だより №. 30

日中は暖かくとも朝晩は冷えるというような日々がつづいていましたが、ようやく暖かさが地についてきました。

「あるがまま見るままの庭暖かに」(池内たかし)

春四月は桜花が咲き、木の芽が芽吹いてきます。紀元前 3 世紀ころにできた「呂氏春秋」という中国の本には、この時期はモグラ(田鼠)が変わってウズラ(鶉)になる時期だなどという不思議な話がかかれていています。俳句の季語にもなっているようです。

木の芽時というのは、古いものから新しいものが生まれてくるということで、この時期に庭の柿木の枝をみると緑の芽が出てきています。漢方生薬の茵陳蒿(インチンコウ)はキク科のカワラヨモギとって、河原や海岸の砂地に生える植物ですが、春になると青い葉の上にフワフワの白っぽい葉をつけ始め、夏には青々とした葉に変わります。このカワラヨモギの葉を乾燥したものが茵陳蒿です。茵陳蒿というのは陳(古い)もの因(よ)り生じた蒿(ヨモギ)という意味です。黄疸に使う有名な薬です。茵陳蒿湯や茵陳五苓散という漢方処方があります。

茵陳蒿湯は茵陳蒿(カワラヨモギの葉)と山梔子(クチナシの実)と大黄(タデ科ダイオウの根茎)の三種類の生薬からなる薬ですが、黄疸をとまなう肝臓病に大変よく効く薬です。

ある慢性の B 型肝炎の主婦の方でしたが、慢性化して肝硬変とって、肝臓が硬くなってしまいう状態にありましたが、この茵陳蒿湯がとても良く効いて、肝臓機能検査も改善し、すっかり元気になられた方がありました。

また茵陳五苓散という薬もあります。これは五苓散という身体の余分な水を除く働きのある薬に、茵陳蒿を加えたものです。黄疸を治す作用もありますが、肝臓病で腹水がたまったり、身体にムクミをきたしている方に有効です。

ある 60 歳台の主婦の方でしたが、肝臓内に胆石がたまって、黄疸や腹水や身体にムクミをきたし、治療の手だてがないと言われていましたが、この茵陳五苓散を飲んでいただくと、みるみる腹水もムクミも取れて、元気になられた方がありました。茵陳蒿にはそのほか水を去る作用や炎症を治す作用もあり、漢方ではきわめて有用な生薬として用いられます。

